

## 安来市小中学校適正配置基本方針に係る説明会 実施状況について

安来市教育委員会では、令和3年度に策定した「安来市立小中学校適正配置基本方針」について、市内の学校、交流センターなどで説明会を開催するとともに、意見交換やアンケート調査を通じて、地域のみなさまのご意見やご質問を伺いました。これまでのアンケート結果と、ご質問に対する現時点の考え方などを以下にまとめました。

### 【説明会の実施状況】

●実施時期：令和4年6月～（継続して実施中） ※11/30現在の集計

●実施状況：

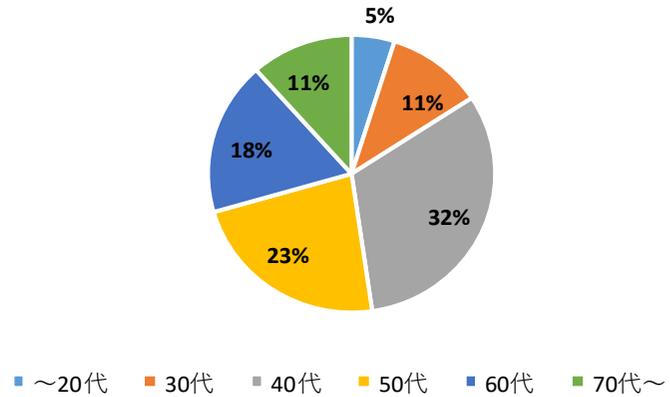
区分	会場数	参加者数(延べ)
①保護者、教職員	9	179
②地域団体、交流センター	10	215
③その他の団体等	2	139

●今後の予定：引き続き、各学校、交流センター、出前講座等での実施を予定しています。

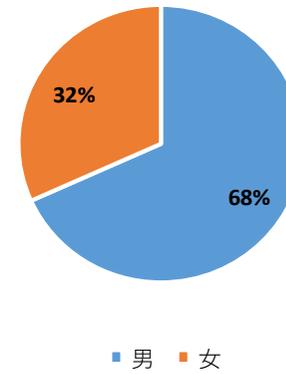


## アンケート調査より

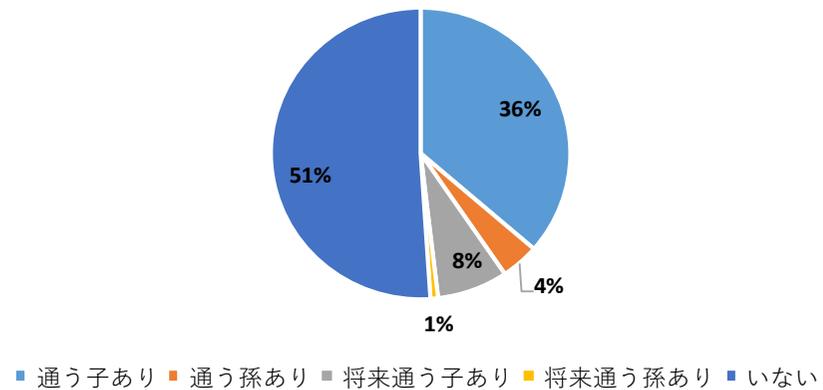
### 1. 参加者の年代



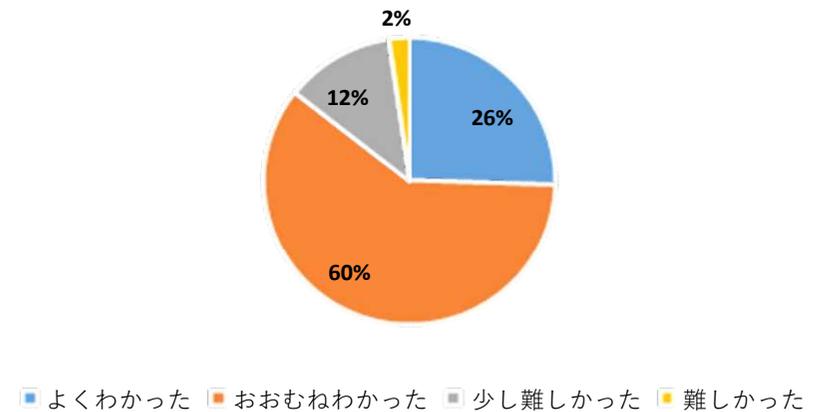
### 2. 参加者の性別



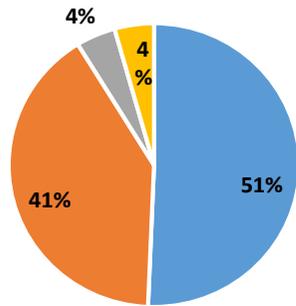
### 3. 家族に小中学校に通う子や孫がいるか



### 4. 説明会の内容について

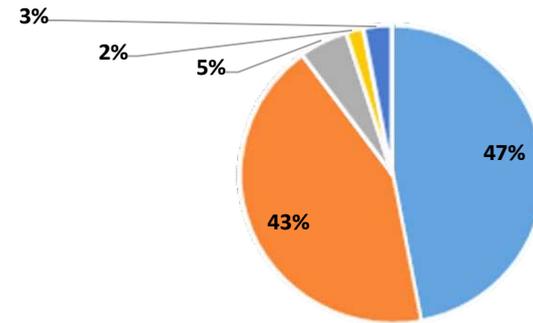


### 5. 学校教育や学校の適正配置への関心は？



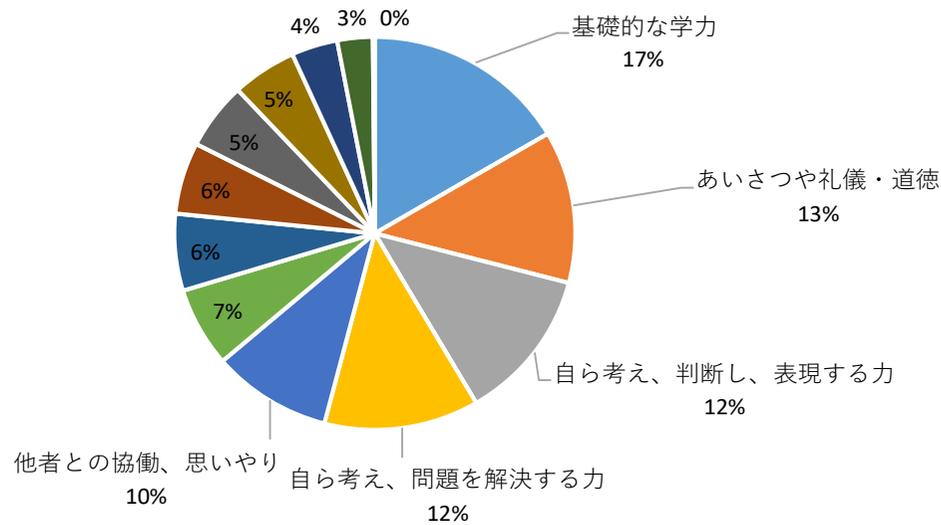
■ 高い関心あり ■ 多少関心あり ■ あまり関心がない ■ どちらとも

### 6. 地域と学校との関わりについて



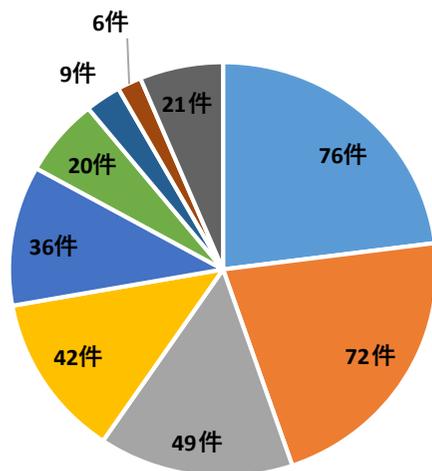
■ 強い関わりあり ■ ある程度関わりあり ■ 関わりは薄い  
■ ほとんど関わりはない ■ わからない

### 7. 学校教育において、特に力を入れて欲しいこと、養って欲しい能力



■ 基礎的な学力  
■ あいさつや礼儀・道徳  
■ 自ら考え、判断し、表現する力  
■ 自ら考え、問題を解決する力  
■ 他者との協働、思いやり  
■ 自ら努力し、学び続ける力  
■ 体力・健康づくり  
■ 多様性を認める価値観  
■ ICTや外国語等の新しい学習分野  
■ 自己表現・自己主張  
■ ボランティアや地域貢献  
■ ふるさと教育  
■ その他

## 8-1. 現在、学校等について感じていることは？（良いところ）

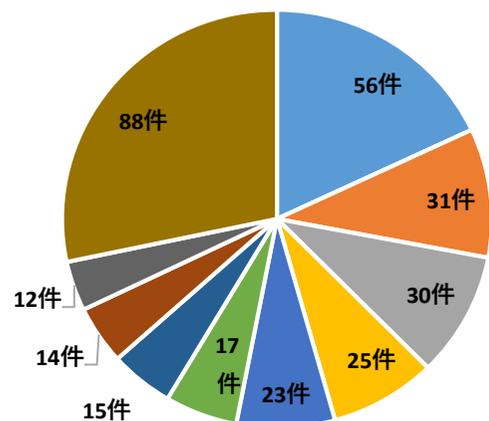


- 少人数で学年を超えたなじみの関係、安心感、のびのびとおおらか、仲がよい
- ふるさと教育、地域とのふれあい、地域や家庭との強い連携
- 素直、挨拶など基本的なことがきちんとできる
- 少人数で一人一人の子どもに目が行き届く、きめ細やかな指導
- 小規模校で様々な行事で多くの体験・活躍ができ、責任感も養われる
- 多人数による多くの出会い、学びあい、切磋琢磨、行事等のダイナミックさ
- 中～大規模校で、学習面、友達との交流の面など、バランスが良い
- 自然多く豊かな教育環境
- その他

### 【その他のご意見】

- ・ 元気、活力ある子どもたち
- ・ 通学が便利、安全である
- ・ 支援が必要な子にも手厚い
- ・ 物怖じせずに発言する
- ・ 自発的な学習活動をしている
- ・ 多数の活動の場がある
- ・ バス登校の経験が子どものためになっていると思う
- ・ 人数が多く、気の合う友達や部活動などを選べる
- ・ 小規模校では一人が自由に使える学校備品が多い
- ・ ICTを効果的に活用している
- ・ 学校の施設、環境が清潔、安全である ほか

## 8-2. 現在、学校等について感じていることは？（心配なところ）

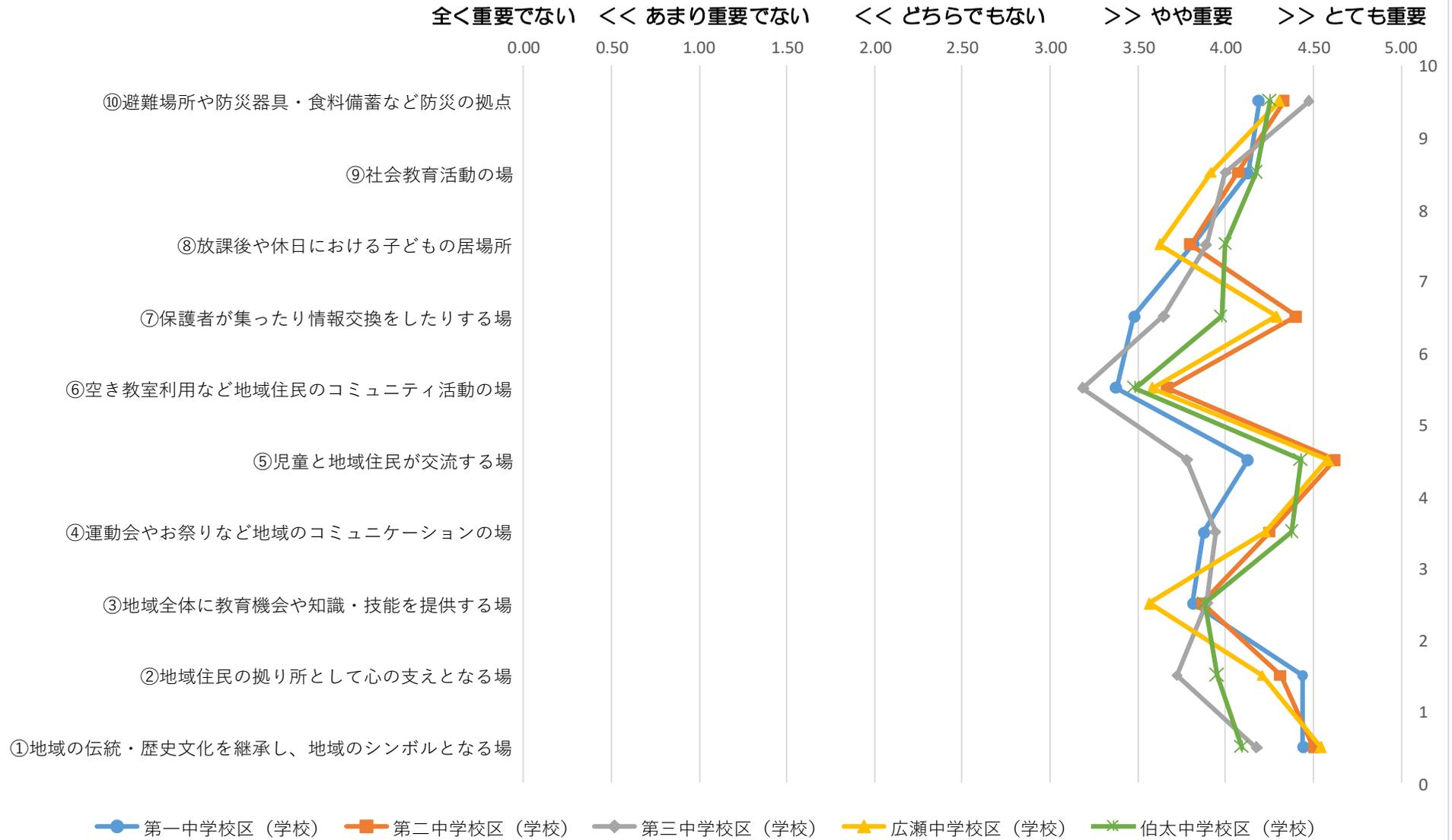


- 人数が少なくなっていることで様々な不安、弊害を感じる（学校全体、同級生、男女別、地域内）
- 少人数集団ゆえの人間関係の固定化、クラス替えがなく逃げ場がない
- 規模や経験の差から、少人数から多人数の集団に入った場合の対応やコミュニケーション能力に不安がある
- 小人数では集団での行動が経験ににくい、社会性や、多様性を認める価値観を育みにくい
- 人数が少なく、競争や切磋琢磨する環境にない
- 小規模校では部活やスポ少の人数が少ない、選べない
- 社会教育活動、地域との関わりの減少
- 通学の安全性、距離などへの不安
- 自分の意見を言えない、指示待ち姿勢、自分で決断し行動できない
- その他

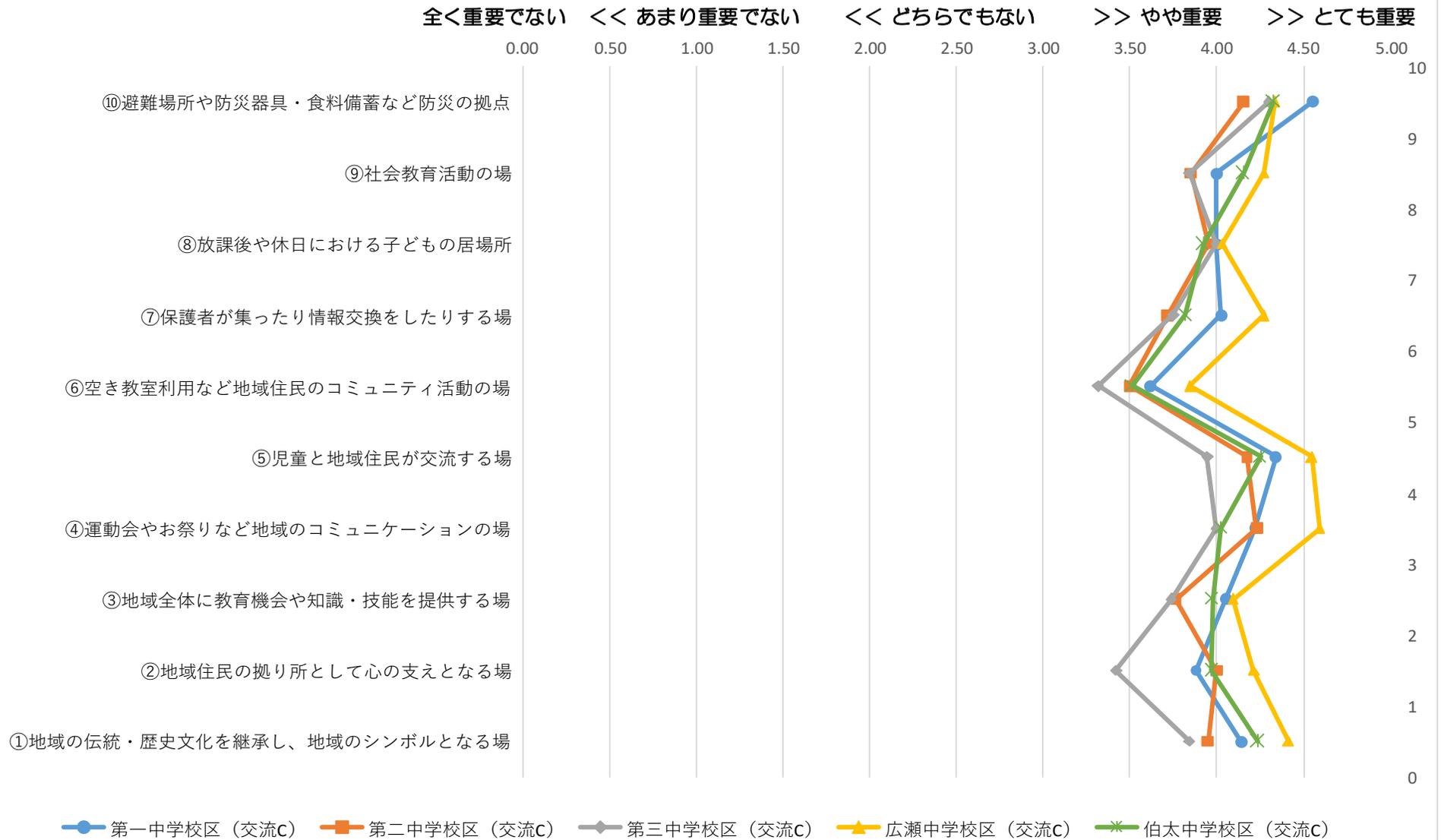
### 【その他のご意見】

- ・学校教育や教職員のあり方についての疑問、不安
- ・子どもがおとなしく、パワーを感じられない、大事にされすぎている
- ・地域の人口減
- ・施設の老朽化や修繕対応等の遅れ、設備などの不足
- ・不登校やいじめの心配
- ・学校がなくなる不安、なくなってさびしい
- ・大規模校では目が行き届きにくいのでは。個別対応に不安。学校の状況もわかりにくい
- ・教職員の人数、業務量は適正か
- ・学力面の不安
- ・人数が多いがゆえの不安、弊害
- ・放課後児童クラブがなく不便
- ・ICT教育やカリキュラムの増への対応
- ・メディアの使用やルール
- ・現状が変わることへの不安
- ・団体生活のルール、挨拶など、基本的な生活習慣が身についているか
- ・子ども同士外遊びをする姿などが見られない
- ・特別な支援や対応が必要な子に細やかなケアを
- ・バス通学の不便
- ・家庭により子どもの様子に差がある
- ・子どもには多くの大人が関わってほしい
- ・コロナによる制限や生活の変化
- ・少人数で常に先生の目が届き、頑張りすぎる
- ・特色ある学校づくりを
- ・人が減り、PTA活動や地域支援も大変
- ほか

### 9-1. 学校教育活動以外に、学校が担っていると思う役割（学校・PTA回答）



## 9-2. 学校教育活動以外に、学校が担っていると思う役割（交流センター等回答）



～寄せられたご意見・ご質問～

区分	ご意見・ご質問	現時点での考え方
全体的な考え方、見通しなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正配置の基準から外れた山間部の学校などは、統廃合となるのか。数字でなく、大切なのは教育の中身だと思う。</li> </ul>	<p>めまぐるしく変化する現在及び将来の社会において、子ども達に持続可能な社会の担い手として必要な資質・能力を育むために教育環境を整える視点を大切に進めていきます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市教委の考えとしては、あくまで基本方針で定めた基準を重視するのか、地域の思いを聞く考えがあるのか。</li> </ul>	<p>主体的、協働的な学びを進めるためには、一定の規模は必要であると考えていますが、必ずしも統廃合に限らず、さまざまな視点から多角的・総合的に検討しています。また、画一的に基準を当てはめるものではないことは、基本方針の中でも確認しています。丁寧な説明会を行い、地域のお考えを伺ってまいります。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に小規模校を残す考えはあるのか。</li> </ul>	<p>最終的に再編を行うか否かに関わらず、地域の小中学校の将来に向けてのあり方について、市民のみならずと一緒と考えてまいります。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校は手厚い指導をしてもらえ、逆に大規模であれば目が行き届かない部分も出てくるイメージ。大規模化が良いのか、疑問に感じる。</li> </ul>	<p>小規模校の良さもあれば、不足する点もあります。大人が見守りながら、子ども達がさまざまな学びや体験をし、自主性・主体性を育んでいくことが大切であると考えています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数が多ければ、「誰かがやるだろう」という意識が芽生えがち。主体性、自主性は育ちにくいのでは。</li> </ul>	<p>教育活動にはさまざまな場面があり、そういったご指摘の一面もあるかもしれません。しかし、学習面においては、今後の授業の方向性から、クラス内に一定の人数がいることで、多様な考えに触れたり、友だちと一緒に課題を解決しようとしたりすることに繋がり、学びに向かう主体性や自主性が育まれます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政理由からの適正配置検討なのか。</li> </ul>	<p>財政状況に関わらず、子ども達にとって最適な教育環境を考えるために必要な検討であると考えています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正配置検討の結果小規模校を残す場合、どのような考え方のもとに、支援やサポートをしてもらえるのか。</li> </ul>	<p>小規模校の利点が最大限生かせるように検討してまいります。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧安来、広瀬、伯太の区域を超えた再編や、校区の見直しはあるのか。</li> </ul>	<p>さまざまな視点から検討していく考えです。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街部の大規模校には直接関係がないのでは。</li> </ul>	<p>規模の大小に関わらず、「学び」と「地域との連携」の視点に立って安来市の学校教育を考えていく必要があることから、市内全校を対象としています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討の結果統廃合などが行われる場合、どのようなスケジュールを想定しているのか。</li> </ul>	<p>具体的な方向性が定まった場合は、速やかに計画を策定していく考えです。</p>
学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複式学級と単式学級で、学力に差は生じるのか。複式学級ではどのように指導をしているのか、学習において不利な点はないのか。</li> </ul>	<p>複式学級の授業は、1時間のうちに、一方の学年は教員が指導し、もう一方の学年は子ども達を中心となって学習を進めることを、交互に繰り返しながら実施します。現状において、学力学習状況調査からは、複式、単式を理由とする差は認められません。ただし、人数が固定化しているために、多様な考えを引き出しにくいという面があります。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用することで、複数校が一緒に勉強して、協働的な学習の経験ができたり、教員の負担軽減に繋がるのではないか。</li> </ul>	<p>現在、小規模校において、複数校の児童同士によるICTを活用した協働的な学習の取組が行われています。その際、教員はそれぞれの教室でサポートを行うため、必ずその場にいる必要があります。また、事前の打ち合わせや準備が必要になるので、大きな負担軽減にはつながってはおりません。しかし、他校の児童と交流することは、多様な考え方に触れる機会となるので、今後も取組を進めていく必要があると考えます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校をなくすことは活力ある地域づくりに逆行し、人口減少に拍車をかけるのではないか。</li> </ul>	<p>この検討は、未来を担う子ども達に必要な力が身につくよう、「教育」の視点に立ち、子ども達にとって最適な教育環境を考えることを第一義としています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域から学校がなくなることの弊害をどのように考えるか。</li> </ul>	<p>一方、少子高齢化が加速する中、地域の存続も重要な課題です。持続可能な地域づくりについても検討が必要であると考えています。</p>

地域との 関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の適正配置問題の前に、まずは人口対策、少子化対策が先ではないのか。</li> </ul>	<p>安来市では「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、子育て支援、雇用創出、住環境向上、魅力的な地域形成の4つの基本目標に沿って、市の様々な業務分野が相互に関連しながら総合的に人口対策を推進しています。学校適正配置の検討は、これと並行し、子ども達にとって望ましい教育環境を整え、地域の将来を担うひとづくりを目指すものです。ハード整備に関しても、地域の一拠点として、長期的なまちづくりの視点を持ちつつ検討していく考えです。</p> <p>一体的な子どもの教育に関しては、保幼から高校までの各接続期や発達段階を意識し、関係機関の連携のもと、様々な学習活動、共同事業を実施しています。また、市内2高校の高校魅力化コンソーシアムにおいては、市や地元企業等多様な団体と学校が協働体制を構築し、小中と高校をつなぐ活動や、高校の特性を生かした部活動やICT活用教育により連携する中で、地域創生の取り組みが行われています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校のことだけでなく、保幼～小～中～高と子どもの教育を一体的に考え、さらには、若い世代の地元への定着・還流を目指した雇用対策や、地域づくりと連携した施設整備など、安来市全体の政策ビジョンと関連付けて検討されるべきだ。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会とは？</li> </ul>	<p>現在の学校評議員制度を発展させ、地域の多様な団体等が外部から参画し、校長の示す学校運営の方針などを承認していただくものです。学校と地域が目標を共有することで、子どもとの交流や学校支援が、より質の高い協働活動となることが期待されます。</p>
施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設が老朽化している、建て替えなどの考え方は。</li> </ul>	<p>学校施設長寿命化計画に基づき、計画的な施設修繕等を行っていますが、追いついていない状況です。学校の適正配置検討の間は大規模改修は行わず、部分的な改修で対応することとしています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の修繕や環境整備が不十分に感じる。</li> </ul>	
通学	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠距離通学となった場合の交通手段は。</li> </ul>	<p>通学に係る負担については、検討にあたって、非常に重要な視点の一つであると考えています。また、遠距離通学となる場合には、交通手段の確保と支援策も検討することとしています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>基準に通学時間60分とあるが、自宅からバス停までの移動の問題もあり、特に低学年にとっては長すぎるのではないか。</li> </ul>	

その他	・教職員の負担が大きく、余裕をもって子どもに接することができないように思う。教職員の配置はどのように決まるのか。	教職員は、法令を基準として定数配置が定められており、学校規模に応じた適切な配置がなされています。
	・いじめや不登校などが増えているとも聞くが、学校の規模など関係があるのか、またその対応に差があるのではないか。	いじめの認知件数や不登校数の増加の原因については、学校規模との関係はありません。規模に関わらず、きめ細やかな対応を行っています。
	・大規模校でも、特別な支援が必要な子にきめ細やかな対応をしてもらえるのか。	学校の規模に関わらず、支援が必要な児童生徒に対しては、個別の特性に配慮しながらきめ細やかな指導、支援を行っています。
	・統廃合があった場合、跡地利用などについての考え方は。	跡地の有効活用については、地域と協議しながら進めていく考えです。

## ～その他のご意見～

### ●全般について

- ・地域から学校がなくなり、子どもの姿が消えることは寂しい。なくさないでほしいと思ってしまう。
- ・今後地域の人口や子供の数が増えることは望みにくい。今はまだよいとしても、先送りにできない段階にきたんだと感じた。
- ・人数が少なくとも安定している学校がある一方で、大きな学校でも人数が減っており驚いた。将来が不安。
- ・少子高齢化は急激に進んでいる。当事者の子どものためには、早く結論を出すべきだと思う。
- ・子供の数の減少は、学校を支える親の数の減少でもある。PTA活動なども大変に感じるようになった。
- ・昨今ニートやいじめの問題などもある。学校生活の多様な関わりの中で周囲と協調し、社会で生きていく術を学んでほしい。
- ・子どもの数や学校の状況についてあまり知らず、危機感がなかった。これから考えていきたい。
- ・自分で考え、表現し、友達と考えながら課題を解決していく「アウトプット型学習」の実践には一定の人数規模が必要だ。
- ・自身の子どもの頃とは、学校の勉強の様子や、子どもに身につけさせるべき力についての考え方も変わっており、そのような学習ができる環境を作らなければならないのだとわかった。
- ・子ども達や、若い世代の意見を聞くべきである。
- ・教育の充実が図られ、地域住民との関わりなどの質が改善・向上すれば、配置がどのように変化してもよいと思う。
- ・非常に残念だが、現状の人数や施設の状況からは、学校がなくなるのはやむを得ないと思う。
- ・時代の流れに沿った適正化を進めてもらいたい。

### ●学校の規模について

- ・小規模校では、常に注目され、主役にならないといけない。負担を感じる子もいる。
- ・小規模校では、複式と単式を繰り返す学年があり、子どもにとっても先生にとっても大変だと思う。
- ・小規模校では、人数が少ないことでできない活動もあり、経験の差も生まれる。適切な教育環境といえるのか。
- ・小規模校で、同級生がいない、男女差に大きな偏りがある等の環境は、やはりかわいそうだと思う。
- ・小規模校では、多様な考えに触れ、時に競い合いながら切磋琢磨する環境となりにくい。

- ・小規模校では、人間関係が固定化しがちである。人間関係に躓いたときに逃げ場がない。クラス替えができる人数は必要。
- ・小規模校では、部活動やスポ少の選択肢が少ない、人数が足りず試合に参加できない、文化部の種類が少ないなどの点は残念だ。
- ・小規模校から、中学、高校に進んだとき、環境変化にうまくなじめないケースもあると思う。
- ・小規模校出身で、のちに大きい学校へ進学した。初めから人数が多い学校で学びたかったと思った。
- ・最低でも複式学級にならない程度の人数は必要だと思う。
- ・人数が全てではないと言うものの、あまりに少なくでは、学校教育としてどうなのか。
- ・子どもには人数の多い学校で教育を受けさせたい。
- ・手厚い教育が受けられることはありがたいが、教職員不足の中で、小規模校に多数の先生を配置してもらっている現状に疑問も感じる。
- ・教員の立場からは、ある程度の人数規模は必要だと感じる。
- ・小規模校出身で、のちに大きい学校へ進学したが、特に困ることはなかった。小規模校での経験に十分満足している。
- ・小規模校では、皆に多くの活躍の場があり、積極性や主体性が育まれる。
- ・小規模校では、学年を超えた学校としての一体感の中で、皆が仲良く、思いやりを持って過ごすことができる。
- ・小規模校では、地域との繋がりが深く、特色あるふるさと学習などが行われている。学校、地域、双方にとって良い関係が構築されている。
- ・小規模校では、親同士のつながりも深く、学校の活動にも協力的である。
- ・仮に統合することになっても、小規模校の良い面が残ることを願う。子どもの活躍場面がたくさんあること、一人一人の子どもの良いところを見つけてもらえること、十分な教員が配置され、手厚い教育が受けられることなど。

## ●学校と地域について

- ・市街地と中山間地域の違い、また各地域の個別の事情を踏まえ、住民の意見をよく聞いて進めてほしい。
- ・過去の統廃合で学校やこども園がない地域では、やはり地域と子ども、学校との繋がりは薄い。もう一段統廃合が進むと、現在のわずかな関係もなくなってしまうのではないか。
- ・学校がなくなれば若い世代は地元に住まなくなることが予想される。地域の未来に大きな影響を与える覚悟をもって決定する必要がある。
- ・地域との繋がりが子ども達の心情面を育み、地元への愛着に繋がっていると思うので、慎重に検討してほしい。
- ・学校のことも地域のことも、もっと早く議論し、対策するべきであった。
- ・小規模校ならではの良さもある。地域として小規模校で子どもを育てていくことも、積極的に選ぶべき選択肢の一つであると思う。

- ・小規模校をなくすだけでは、市街地への人口集中を加速するばかり。各地域の将来像や人口対策なども併せて考える必要がある。
- ・学校の歴史や伝統、地域の思いなどは理解できるが、未来を見て、子どもたちのためになる学校教育の在り方を考えるべきだ。
- ・大規模校を求めて出ていく人がいる一方、中山間地の豊かな自然環境での子育てを求める人もいる。地域の人も自ら努力して、地域そのものの魅力づくり、地域づくりをしていくことも重要だと思う。
- ・地域の熱意で小規模校を残したとしても、そこに住む若い世代の保護者や子どもがその学校を選ばない結果となることを危惧する。子どもファーストで議論を進め、よい教育環境を作ってほしい。
- ・学校教育と社会教育を合わせて検討しなければならない。
- ・学校がなくなった場合、跡地活用も含め、限界集落でどう地域づくりをしていくかも重要な論点だと思う。
- ・何を、誰を中心に考えるか、目標と目的を見失うことなく対応してほしい。
- ・地域振興に学校を使ってはならない。小さな学校が地元に残ったからといって、それだけで今後地域が栄え、人が増えるわけではない。
- ・ビジョンのような学校と地域の関係ができれば素晴らしいと思うが、世代間のギャップ、後継者や地域リーダーの不在、住民の無関心など、交流センター等を中心とした現状の地域活動じたいにも課題が多い中で、難しい面もあると思う。
- ・ボランティア活動などを通じて、個人主義ばかりでなく、子どもの頃から皆のため、という考え方を養ってほしい。地域活動への若い世代への参画が少ないことが大きな課題である。
- ・子ども達が将来安来で子育てをしたいと思える地域になるよう、現状に停滞することなく、大人が常に良い方法を探し求め続けるような雰囲気が必要。常に最善でなくとも、皆の意見が反映され、変化があると感じられる地域であってほしい。
- ・自分の住む地域の良さを知るとともに、将来の地域づくりのために、子どもたちのための良い教育環境づくりが大切であることを理解される機会になるとよい。
- ・学校がどうあれ、24館の交流センターは存続されるとのことで、ひとまず安心した。今後ますます交流センターが地域の要になると思う。
- ・学校がないと地域が寂しくなるという不安もわかるし、学校に子どもが少ないのもよくない、それでもどちらかを取るなら、子どもに多人数で学ばせる方がよいと思う。

## ●その他のご意見・ご感想

- ・小中一貫校や義務教育学校を導入してほしい。
- ・旧伯太町は地域のまとまりから、場所はともかく、小学校が一つになるというのはありうろと思っていた。

- ・子どもの人数や部活動のことなどをふまえると、伯太中と二中の統合も検討してもよいのではと思う。
  - ・旧広瀬町は面積が広い。人数が少なくとも、通学距離を考えると統合は困難。
  - ・旧広瀬町は、すでに中学校も統合されており、小学校も一つにならざるを得ないのかなと思う。
  - ・広瀬と伯太はそれぞれ中学校はあった方がよいと思うが、小学校は難しい。
  - ・能義平野に並ぶ能義、南、宇賀荘の小学校については、統合されるのかなとイメージしている。
  - ・赤江小は旧来より一中と三中に分かれるが、地域ではあまり違和感を感じていない。
  - ・赤江小について、荒島小と統合するとか、全て三中校区としてははどうか。
  - ・地域との関わりなど考えるべきこともあるが、旧市町のまとまりにこだわりすぎなくてもよいと思う。
  - ・市街地の学校に人数が集中しており、学びの環境に差ができています。大規模校でも校区の見直しなどを検討すべき。
  - ・通学手段がきちんと確保されていれば、他校との合併や、よその地域の学校に通うことにあまり抵抗は感じない。
  - ・子供の数は今後も減少する。かなり先を見据えて議論をしておかないと、せっかく決めても、すぐに次の対応が必要になると思う。
  - ・通学のこともあり、小学校は現状のままでよいが、中学校は検討が必要だと感じる。
  - ・通学の負担に配慮すべき。特に小学校低学年にとっては、負担が大きすぎると、学びに向かう意欲すらなくなる。
  - ・適正な学校の規模、数とすることで、学校施設の維持管理もしやすくなり、子どもたちがよりよい環境で学習できる。
  - ・現行バス通学をしているが、待ち時間や運行時刻のことなど不便も多い。不利益がないよう配慮してほしい。
  - ・大人が思う人数変化や通学の負担と、子どもが実際に感じる負担は異なると思う。
  - ・多人数での関わりを経験させる意味でも、将来的な統廃合を見据える意味でも、学校間の交流が一層進むとよい。
  - ・将来でなく、現状すでに、子どもの学びや活動の機会が制限されていたり、施設環境面で不利益が生じたりしていることに配慮してほしい。
  - ・教育にも多様性を認め、地域の魅力も生かした様々な特色のある教育を進めてほしい。また、特色のある学校を選択できるとよい。
  - ・アウトプット型学習が推進されているとのことだが、社会に出てから、職場や地域で自分の意見を述べ、建設的な議論をすることはとても重要。
- 子どもの頃からその力を伸ばしてほしい。
- ・学齢の子どももいないので、あまり関心がないが、良い方向に行くことを願っている。
  - ・住民皆に感心を持って、考えてほしいと思った。説明会で話を聞いたり、意見交換ができてよかった。